

令和5年度岡山県農林水産総合センター森林研究所（木材加工研究室）

試験研究課題評価結果票

<事前評価>

- 総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番号	R5-事前-1						
課題名	県産ヒノキ材を内装として使用した空間の快適性の評価						
課題の概要	近年の人口減少に伴い新規住宅着工数は減少の一途をたどっており、今後木材需要を拡大するためには、構造材だけでなく内装材としての需要も高める必要がある。そのため、本県の主要樹種であるヒノキ材を内装に使用した際の空間の特性やヒトへの効果・効能を検証し、消費者に訴求できる資料を作成する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	1人	2人	1人	人	3.7
	有効性	1人	2人	3人	人	人	3.7
	効率性・妥当性	人	3人	2人	1人	人	3.3
	総合評価	人	3人	2人	1人	人	3.3
助言・指摘事項等	<p>1. ヒノキの付加価値を高められる研究。一方で、香りや見た目の印象、ヒトへの影響など個人差がある感覚的なモノを数値化できるのか。</p> <p>2. 本研究課題は過去にも類似な研究課題が行われており、今回の研究者のための研究という位置づけなら良いのかもしれないが、課題設定の背景からはその意図も読み取れず、研究テーマ選択に矛盾を感じる。</p> <p>3. 同所での過去の研究課題が活かされていないのか、個人的での研究なのかによっては、厳しい財政の中から捻出する研究でもないと感じる。</p> <p>4. 内装材に無垢材とビニールクロスを使用しての効果は業界人なら当然のように健康面、環境面からも理解されている。その結果をどう周知していくのか、対コストも考慮しながら普及させていく手法の方が急務ではないか。</p> <p>5. しっかりした根拠を示すなど、まとめ方に注力をお願いします。</p> <p>6. 本研究課題は県産ヒノキ材を内装材として利用することの可能性を探り、またヒノキ材の有する特性を空間快適性と結び付けることを目的としており、実施することが適当と思われる。基礎データを得るための実施計画の（1）及び（2）については、得られるデータは県産ヒノキ材の魅力の数値化に寄与するものであり、有用なものとなることが期待される。</p> <p>以上のことから「総合評価4」としているが、実施計画（3）については、研究期間や被験者数が限られていることから、研究の焦点を整理することを含めて詳細な事前検討が必要と思われる。</p>						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。